

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：27401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K13366

研究課題名（和文）戦後期「新国劇」と映画・テレビ・ラジオの相関性の研究

研究課題名（英文）A Correlative History of Shinkokugeki and Mass Media in Post-War Japan

研究代表者

羽鳥 隆英 (Hatori, Takafusa)

熊本県立大学・文学部・准教授

研究者番号：70636026

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の主題は大正中期、昭和後期の70年間、迫真的な剣劇などを上演し、国民的な人気を得た劇団「新国劇」である。特に戦後期の新国劇と映画、テレビ、ラジオなどの諸媒体の相関性に焦点を絞り、大衆芸術史に占める新国劇の位置を調査し、学際的な新国劇研究への端緒を開いた。また新国劇関係者への調査などを通じ、新国劇公演のテレビ中継を録画したビデオなどの資料の掘り起しに成功した。研究成果は和文、英文の発信を見た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新国劇を焦点に、近現代日本の演劇、映画、テレビ、ラジオなどの諸媒体の相関性を問題化した本研究は、演劇研究、映画研究（人文科学）とテレビ研究、ラジオ研究（社会科学）、日本演劇研究と日本映画研究の学際的な共同が遅々、前進しない現況に小さな一石は投げ得たと言える。特に岡本喜八『日本のいちばん長い日』（1967年）論は高評価を得た。また新国劇資料の掘り起しに伴い、ビデオ研究（社会科学）の視点も導入し得た。

研究成果の概要（英文）：The subject of the present project is Shinkokugeki, a theatrical company which achieved national popularity from the mid-Taisho era to the late Showa era, especially for realistic sword actions. Focusing on the correlative history of Shinkokugeki and mass media in post-war Japan, it aimed at identifying the company's position in the popular art history and paved the way for the interdisciplinary Shinkokugeki studies. In addition, it succeeded in collecting historical materials including audio-visual records of Shinkokugeki performances. Achievements have been published in Japanese and English.

研究分野：日本芸能論

キーワード：新国劇 演劇 映画 テレビ ラジオ ビデオ

1. 研究開始当初の背景

劇団「新国劇」は1917年、早稲田大学教授・坪内逍遙(1859年 - 1935年)の文藝協会附属演劇研究所2期生の澤田正二郎(1892年 - 1929年)と倉橋仙太郎(1890年 - 1965年)を中心に結団された。剣劇作家・行友李風(1877年 - 1959年)の『月形半平太』(1919年4月@京都・明治座初演)や『国定忠治』(1919年8月@京都・明治座初演)などの迫真的な殺陣の成功を経、日本演劇界に独立した位置を確立するが、同時に翻訳劇や翻案劇、歌舞伎や新派劇、宗教劇や歴史劇など、様々な種類の演目も上演した。1929年の澤田歿後も後継者の島田正吾(1905年 - 2004年)と辰巳柳太郎(1905年 - 1989年)が戦中期・戦後期と人気を維持し、緒形拳(1937年 - 2008年)などの新世代も登場するが、1960年代以後の日本芸能界の不可逆的な再編を経、1987年に劇団名を澤田家に奉還した。

研究代表者・羽鳥隆英は早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助手に在職中の2014年、同館副館長・児玉竜一の監修下、企画展『寄らば斬るぞ!新国劇と剣劇の世界』を統括した。前述の通り、演劇博物館が顕彰する坪内逍遙は澤田正二郎の恩師である。結果、劇団70年史を通じ、新国劇は演劇博物館/早稲田大学と最恵的な関係性を継続した。企画展は2017年の新国劇結団100年の節目を3年後に控え、新国劇と演劇博物館/早稲田大学の由縁を総括するための祭事であり、同時に解団後4半世紀以上を経、当事者の言説を脱神話化する環境が整備された時宜を逸せず、本格的な新国劇研究の開幕を宣言するための研究教育事業とも位置付け得よう。研究代表者は演劇博物館蔵の新国劇資料の体系的な調査に並行し、企画展会期中の早稲田大学大隈大講堂公演に出演した元・新国劇座員を中心に、予備的な聞き取り調査を遂行し、本研究を準備した。

2. 研究の目的

本研究の目的は戦後期の劇団「新国劇」と映画、テレビ、ラジオなどの大衆的な媒体の相関性の研究である。実際、新国劇が劇団70年史中、日本演劇界に独立性を維持し得た1920年代 - 1960年代は、同時に映画、ラジオ、テレビが登場し、演劇界を巡る状況が不可逆的に変化した半世紀である。この半世紀の間、新国劇は新興の大衆的な媒体と双方向的に触発した。前景に演劇を上演、後景に映画を上映する新国劇「立体シネドラマ」公演などは好例と言える。この事実は、演劇史、映画史、テレビ史、ラジオ史を総合した日本芸能史の必要性、並びに学際的な日本芸能史を実践する際、新国劇の事例研究が担い得る可能性を簡潔に指し示すと言える。以上の必要性と可能性に鑑み、本研究を構想した。調査の主要な焦点は戦後期、特に1953年に本放送を開幕した新興の日本テレビ界が高度経済成長期に文化的な覇権を確立し、新国劇を含む劇団、映画製作の工場である撮影所などの独立性を有名無実化させた昭和30年代 - 40年代である。この選択は、研究代表者が前記『寄らば斬るぞ!新国劇と剣劇の世界』早稲田大学大隈大講堂公演後に予備的な聞き取り調査を遂行し、本研究の主要な聞き取り被調査者に想定した元・新国劇座員が戦後期の入団者であり、戦後期の調査が最優先されると見られたためである。とは言え、新国劇と映画、ラジオの相関史は大正後期に発端するため、戦前期 = 戦中期の調査も排除しない。

3. 研究の方法

本研究の方法は資料調査と聞き取り調査の二本柱である。前者に関し、主要な調査機関などを列挙する。

- (1) 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
- (2) 澤田正二郎家
- (3) 尾道市文学記念室(行友李風資料) 2017年12月11日 14日出張
- (4) 東海大学文明研究所(緒形拳資料) 2018年11月13日出張
- (5) 日本芸術文化振興会伝統芸能情報館

後者は前述の通り、企画展『寄らば斬るぞ!新国劇と剣劇の世界』早稲田大学大隈大講堂公演に出演した元・新国劇座員を主要な聞き取り被調査者に想定した。私蔵の新国劇資料の研究教育への活用可能性が拡大するなど、後述の貴重な研究成果を得た一方、研究期間中に新国劇関係者間の社会的な関係性が不安定化し、2020年度にはコロナ禍に見舞われるなど、様々な問題も発生した。

4. 研究成果

(1)

本研究の第一の成果は、演劇、映画、テレビ、ラジオ、ビデオなどの諸媒体の相関性の問題化を通じ、学際的な日本芸能論の発信に挑戦し得た点である。実際、20世紀の日本芸能界が前述の諸媒体の複合体である一方、研究の現況は人文科学の演劇研究、映画研究と社会科学のテレビ研究、ラジオ研究、ビデオ研究に大別し、さらに人文科学の日本演劇研究と日本映画研究の共同

も遅々、前進しないままである。この現況に小さな一石を投ずべく、本研究は新国劇座員を含む個々の演劇人の日本演劇界内の位置が、演劇以外の諸媒体に出演する際に如何に活用されたかなどを、先行研究に着想を得つつ問題化し、1945年8月15日「終戦」を表象した岡本喜八『日本のいちばん長い日』(1967年)論、NHK大河ドラマ第15作の幕末維新劇『花神』(1977年)論、元禄赤穂事件(1701年 1703年)を物語化した「忠臣蔵」論などに発信した。

(2)

本研究の第二の成果は、日本各地に点在する公蔵/私蔵の新国劇資料を精力的に調査し、研究代表者の研究教育に活用すると同時に、翻刻などを通じ、今後の研究教育への活用可能性の拡大にも挑戦し得た点である。特に新国劇解団後に一部の元・座員と劇団「若獅子」を結団した笠原章(1948年)提供のビデオ類には、1970年代の新国劇公演の貴重な記録映像であると同時に、当時の演劇とテレビの相関性を議論するための貴重な資料にも位置付け得る演劇中継『極付国定忠治』(NHK総合、1976年1月10日)、同『極付月形半平太』(NHK総合、1976年4月16日)が確認され、NHK主導下にデジタル化された。コロナ禍のため、高齢の元・新国劇座員の聞き取り調査の保留を余儀無くされた2020年度には、戦前期=戦中期の新国劇と映画、ラジオの相関性を調査し、本研究を深化すべく、澤田正二郎家に現存する資料をデジタル化した。

(3)

本研究の第三の研究成果は、国際研究集会などの機会を活用し、新国劇論の英語発信に挑戦し得た点である。剣劇は現在の日本が国際的に発信する文芸の最前線に位置し、国際的な研究教育の焦点にも定位されたが、日本剣劇史の転回点である新国劇の研究は日本語も僅少であり、英語も同様である。本研究は新国劇関係語の英語定訳の提案なども目標に、新国劇研究の英語発信を実践した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 羽鳥隆英	4. 巻 14
2. 論文標題 岡本喜八『日本のいちばん長い日』の天皇表象を読む：音響と配役を手掛りに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 映画研究	6. 最初と最後の頁 4-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20758/jscsj.14.0_4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hatori Takafusa	4. 巻 2
2. 論文標題 Theatrical Performances Rediscovered: An Archival Approach to Shinkokugeki in the Mid-1970s	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Archiving Movements: Short Essays on Anime and Visual Media Materials	6. 最初と最後の頁 85-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 羽鳥隆英	4. 巻 143
2. 論文標題 脚本草稿『國定忠次』（尾道市文学記念室蔵）翻刻	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 19 / 79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 羽鳥隆英	4. 巻 42
2. 論文標題 行友季風宛 = 澤田正二郎書簡（尾道市文学記念室蔵）翻刻	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 演劇研究	6. 最初と最後の頁 163 / 173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 羽鳥隆英	4. 巻 141
2. 論文標題 新国劇の演劇映像学：『国定忠治』の原像を探る	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 69 / 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 羽鳥隆英
2. 発表標題 忠臣蔵の現在、日本芸能史の現在
3. 学会等名 時代考証学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takafusa Hatori
2. 発表標題 Fugitives from the Studio System: Ikebe Ryo, Sada Keiji, and the Transition from Cinema to Television in the Early 1960s
3. 学会等名 Japanese Cinema from Multiple Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 羽鳥隆英
2. 発表標題 成瀬巳喜男と新国劇：『桃中軒雲右衛門』試論
3. 学会等名 日本映画学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 羽鳥隆英
2. 発表標題 テレビ録画研究の可能性：「中間的」映像群を巡る調査を起点に
3. 学会等名 ビデオの文化資源学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 羽鳥隆英
2. 発表標題 新国劇『国定忠治』成立史：行友李風の位置付けの再検討を中心に
3. 学会等名 日本演劇学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽鳥隆英
2. 発表標題 揚幕の視線、修業者の視線：新国劇「中間的」映像に見る大劇場の時空間
3. 学会等名 日本演劇学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽鳥隆英
2. 発表標題 岡本喜八『日本のいちばん長い日』の天皇表象を読み直す：音声と配役を手掛りに
3. 学会等名 日本映画学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽鳥隆英
2. 発表標題 幕末 = 明治維新表象と地域性：河井継之助（越後長岡藩）を事例に
3. 学会等名 時代考証学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takafusa Hatori
2. 発表標題 Archiving a Theatrical Company: An Interdisciplinary Attempt at the Centennial of Shinkokugeki
3. 学会等名 Archiving Popular Culture Symposium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽鳥隆英
2. 発表標題 新国劇『国定忠治』成立史：行友李風の位置付けの再検討を中心に
3. 学会等名 日本演劇学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Joanne Bernardi / Shota Ogawa（共編）、Takafusa Hatori（第8章）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 396
3. 書名 Routledge Handbook of Japanese Cinema	

1. 著者名 羽鳥隆英 (分担執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 332
3. 書名 映画とジェンダー / エスニシティ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

熊本県立大学文学部日本語日本文学科「研究者紹介」 https://jil.pu-kumamoto.ac.jp/researcher/hatori-takafusa/

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------